

現場で想うハチミツの事



5月に咲く「みかんの花」。

そして6月に咲く「野山の花」。

当園では現在この二種類の花から採蜜したハチミツを扱わせて頂いております。

「ハチミツ」を簡単に考えれば、水飴のような甘味料の商品と片付ける事が出来ますが、深く考えればとても貴重な食べ物だなあと思い直します。

時期に咲く花々は、それぞれがほんの少しの花蜜をジュワジュワ~と出しています。当たり前ですが、花々が受粉するために昆虫たちをおびき寄せるためです。ミツバチ達は、その花々がちょっとずつ出す花蜜汁を、かき集めて巣箱に持って帰ってきます。

もし人間が花々の蜜を集めて貯めようすると、とんでもない労力と費用が必要なのではないかと思います。一輪一輪の花から、花蜜汁をかき集め、それを貯めて「蜂蜜」ならぬ「人蜜」を作れば、非常に高額なものになってしまうと思います。

商品となったハチミツを見ていると、ミツバチ達の働き、花々からもらう花蜜汁などに想いを馳せる機会がなかなか無いのですが、まさに自然からいただく、100%天然の食べ物です。

花蜜汁をこうして手軽に食べられることに、またお客様にお届け出来ることに、ミツバチと花々に私達自身もっと感謝しなければいけないと反省しております。

働きバチの一生は約30日間。その間に必死にスプーン1杯(5g程度)の花蜜汁を集めてくれます。

もしハチミツを利用される機会に、少しでもお時間がございましたら、みかんの花々や野山に咲く花々達、そして野山に飛ぶミツバチ達の事を思い出していただければ、私達もハチミツをお届けしている立場として、ミツバチ達の頑張りをお客様にお伝え出来ているかなと思って、うれしいです。

お届けしているフルーツも同じ自然界からいただくものです。

自然と共に共生し、「お客様と地域に潤いを」もたらせる事が出来るよう今後とも努力してまいりますので、今後ともご愛顧のほど、どうぞよろしくお願ひ致します。

お客様のご健康とご多幸を
こちら和歌山県より御祈念致
します。

観音山フルーツガーデン
六代目 児玉芳典

